

○個別最適な学び先進地視察②

7月7日(金)福島県大熊町立学び舎ゆめの森学園を視察してきました。

国道6号線沿いは、まだ除染が手つかずのまま、3.11から時計が止まっているようでした。西に向かうにつれて新しい町づくりが進んでいました。震災数年後の大槌町に似ていました。復興はこれからという地域を目の当たりにして、歯を食いしばって頑張っている大熊町の皆さんから多くを学ばせていただき、大槌町の教育課題の解決に全力を注がなければならないと決意を新たにしました。



ゆめの森学園のビジョン・バリュー・ミッションに合わせた校舎を実現

大熊町は2011年3月12日早朝の避難指示により全町避難し、会津若松市で各学校・園が移転開校していました。大熊町立学び舎ゆめの森学園は、2022年避難先の会津若松市で開校し、2023年4月に大熊町に帰還、同時に認定こども園を開園。2学期より新校舎に移転し、義務教育学校・認定こども園が一緒になって、0歳から15歳までの一貫した教育を進めています。

「わたし」を大事にし、「あなた」を大事にし、みんなで未来を紡ぎ出す。をビジョンに、「自主自立」「共感協働」「承継創造」「多様性」をバリューとし、「ごちゃまぜラーニング」「主体的に自ら学びをマネジメント」「インクルーシブな学びのコミュニティ(特別支援学級はなし)」「好奇心を発揮し、熱中し没頭していく」をミッションとしています。

全校児童生徒は57名です。少人数のよさを生かし、全ての児童・生徒の個別の支援計画を作成し、全ての時間に自由進度学習を取り入れて、個別最適な学びを実現していました。

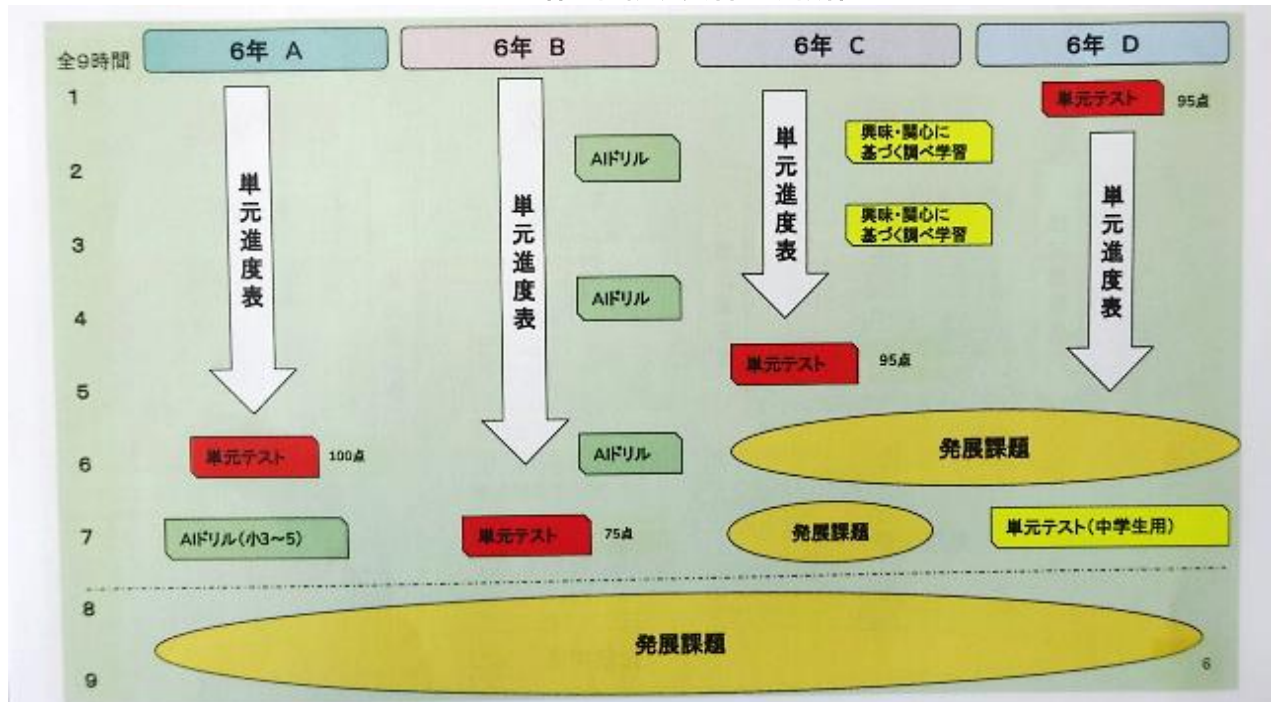
目標や課題解決に向けて「学びを自己マネジメントする力」をつけるために

「なぜ? どうして?」

「誰と」「どこで」
「何を学ぶか」
「どのように学ぶか」
を自己決定

振り返り
「何ができるようになったか」
「どうすればよりよくなるか」

※ゆめの森学園説明資料より抜粋



単元計画よりも早く進めることができるので、発展課題の時間を確保できる。

評価の流れ

- ①担任は学期末の個別懇談で現段階の評価を児童・生徒に伝え、児童・生徒はそれをもとに長期休業中の目標・計画を立てる。
- ②児童・生徒は、長期休業中の計画に沿って、学習を進める。
- ③新学期にチャレンジ・ウィークを実施する。(課題点をクリアしたら、評価が上がる。)
- ④正式な評価を児童・生徒に示す。



隠れ家のような学習スペース



読み聞かせスペース